

日本語を使い、自分の力で学習に取り組むことができる外国人児童の育成 — 「ぐんまのかけはし」のモジュール学習を取り入れた授業構成とICTの活用を通して—

特別研修員 多文化共生教育 加藤 敦子 (小学校教諭)

目指す児童像

日本語を使い、自分の力で学習に取り組むことができる外国人児童

自分の力で、考えを伝えることができた！ (学習への意欲・自信)
日本語が分かるから、友達との勉強が楽しい！ (多文化共生教育)



【手立て2】

Google Jamboardと音声入力を使った表現活動の設定

音声入力を使って、短い文で簡単に考えを表すことができるようにする。
端末の画面を共有しながら考えを話し合い、課題解決ができるようにする。



絵文字をせつ明する文章のメモを書こう

えらんだ絵文字 名前 児童A

始め	中①	中②
自分が見つけた場所 「くらしと絵文字」の 三つの特長のどれに あてはまるか	この絵文字を見て、わかること	
第1 テープ カッター	手にバツがついている	赤色の の絵なので、
で(に)見つけた。		
テープカッターの刃に さわらない てください	さわらない ということ	とても気を つけてくだ さいというこ と
を覚えていく。		がわから

絵文字をせつ明する文章のメモを書こう

えらんだ絵文字 名前 児童B

始め	中①	中②
自分が見つけた場所 「くらしと絵文字」の 三つの特長のどれに あてはまるか	この絵文字を見て、わかること	
第1 ティン シュの 箱	プラ	矢じるし
で(に)見つけた。		
出るところ がプラス チック	プラスチック できてき るとい うこと	リサイク ルでき るとい うこと
を覚えていく。		がわか

話した言葉で、
すぐにメモができた！
友達と話し合い、
自分の力でメモを
書くことができた！



「ぐんまのかけはし」のモジュール学習と
連動した学習内容を基に作成されたメモ。

話し合いによって新たに作成されたメモ。

【手立て1】

「ぐんまのかけはし」のモジュール学習を取り入れた授業構成

本時の内容に関わる指導プログラムを教師が提示し、基本的な日本語を習得できるようにする。

外国人児童生徒等への
学習支援ガイドブック

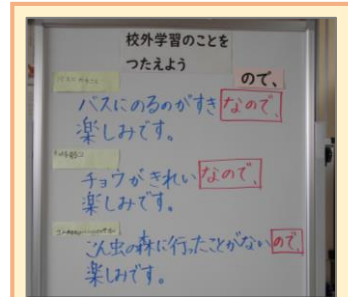


「ぐんまのかけはし」より
「季節を感じよう」をアレンジ
「夏」に楽しみなことを絵と文で書く。
(書く活動)

夏にたのしみなことは、
(花火)です。
はじめて見るからです。

アレンジの仕方

- 15分X3=45分の
プログラムのうち、
一つのモジュール学習を活用。
- 「夏に楽しみなこと」
→学校行事と関連した内容
「校外学習へ出かけるに当たり
楽しみにしていること」
- 理由を表す接続助詞
「・・・からです。」
→「・・・ので、
・・・です。」



「～ので、」を使った
短い文を作ることができた！

【実践事例】 第3学年 国語科「くらしと絵文字」(教育出版)

学習活動：絵文字を説明する文章を書くために、Google Jamboardの付箋機能を使い、音声入力でメモを作成する。

児童の実態

- ・日本語で考えを伝えることが難しい。
- ・学習言語の理解が十分ではない。



教師の思い・願い

- ・母語を頼らずに、日本語で考えを伝えられるようになってほしい。
- ・学習言語を理解した上で、各教科の学習に取り組めるようになってほしい。

群馬県の動向

「多文化共生・共創推進条例」の施行(令和3年4月1日)
「多文化共生・共創推進基本計画」の策定(令和4年3月)

国の動向

中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」
5.「増加する外国人児童生徒等への教育の在り方」(令和3年1月26日)

成果

- 基本的な日本語学習(モジュール学習)と連動した当該学年の教科学習を1時間内で並行して行うことで、見通しをもって学習課題に取り組む児童の姿が見られた。
- Google Jamboardのシートに音声入力をする際、文字を書いたり消したりせず、躊躇なく何度も入力でき、自分の力でよりよいメモを作成することができた。
- Google Jamboardのシート画面を共有し、メモの内容を話し合うことで、よりよいメモにしようと考えを伝え合う様子が見られた。

課題

- 「ぐんまのかけはし」の活用の工夫(そのまま活用する方法、学習内容によってアレンジする方法)により、日本語指導と教科指導を組み合わせた統合学習を継続することで、児童の学習への意欲や自信につながれると考える。
- 画面を共有し、より児童同士で考えを伝え合う場面を多く設定することで、意見の交流が活発にできると考える。